

研究室外での活動を通して

蟹江 慧



初めまして、大阪大学大学院工学研究科 特任研究員をしております、蟹江慧と申します。昨年度の3月に名古屋大学大学院工学研究科の博士課程後期課程を修了し、今年度の4月から赴任しております。

このページは、私もよく読んでいたページでして、自分にとって憧れの先輩方が執筆されておりますので、まさか自分に執筆する機会が来るなどは、思ってもおりませんでした。

さて、私はまだまだ若輩者ですので、皆様に自信を持って何かまとまった話をするにはできませんが、私が博士課程中に研究室外で学んだこと、経験できたこと、嬉しかったことを記したいと思います。特に、自分よりも年下の方に見ていただき、同じような気持ちや経験を味わっていただけたら幸いです。

国内学会

私が学会デビューしたのは、2006年に大阪大学で開催された、第58回日本生物工学会でした。当時は、学会って何?先輩方は楽しそうに話しているけど、面白いのかな?と言ったくらいの、気楽な感じでした。しかし、実際に発表してみると、もちろん知らない方々ばかりですし、たくさんの先生方がいらっしゃって、大変緊張する雰囲気でした。そして、質問も多方面からされますので、本当にいい勉強になります。自分がいかに井の中の蛙だったのかと思い知らされます。博士課程の5年間で、15回ほど学会で発表した現在でも、毎回緊張します。そして、分かりやすい発表資料を作成したり、質問に対していかに的確に答えたり、新しい知識を手に入れたりなど、学会は自分にとって有益かつ勉強になる場であり、そして、学生同士の交流はもちろん、先生方との交流もより近い距離でできるのも魅力です。学会によってはコンペティションもありますので、積極的に応募してモチベーションを上げるのもよいと思います。

生物学若手研究者の集い(若手会)

私の人脈といいますか、研究室外での研究の人間関係が最も広がったと思う会合です。学会よりも、もう少し砕けた会合で、名前の通り若手中心の会合です。初めて参加したのは、偶然にも愛知での若手会で、私の所属する研究室が幹事をいたしました。ホームグラウンドであったため、初めてにも関わらず積極的に交流を深められた気がします。さらに、京都、岡山で開催された若手会に参加し、たくさんの先生方、同年代の方と交流できました。特に、同年代の方々とは、若手会以外でも交流

しており、こういう『仲間』づくりは、私にとってかけがえのない楽しみです。分野は違えど、お互いの悩みや、共感できる部分の話したり、時にはくだらない事でも笑いあえたりできる。将来、そういう仲間と一緒に大きな仕事ができたら幸せだろうなど、想像していたりもします。若手会では、交流だけでなく、普段は聞く事の出来ない講演や、イベント、研究発表会などもあり、かなり濃厚な会です。次の活力をもらえる、そんな会に参加してみたいはいかがでしょうか?

国際学会 (YABEC)

私が、初めて国際学会で口頭発表をしたのが、中国のアモイで開催された第15回YABEC (通称: ヤベック)です。YABECはYoung Asian Biochemical Engineers' Communityの略で、生物工学若手会のアジア学会バージョンと言った感じです。日本、中国、台湾、韓国の順で開催されており、今回は韓国で開催される予定です。私は、幸運にも中国、台湾で開催された2大会に参加いたしました。この学会の売りは、参加費が非常に安い事です。普通の国際学会であれば参加費だけで5、6万円するところなのですが、この学会は宿泊費込みで1万円くらいです。初めての国際学会としては、参加しやすい学会と思います。そして、英語で自分の研究が少しでも伝わっているのを感じると、ものすごく楽しくなってきます。相手がお世辞でも『That's interesting!!』と言ってくれたら、これほど嬉しい事はありません。

最後に

かなりまとまりのない話になってしまいましたが、博士課程に進めば、こんなにも素敵な経験が待っています。もちろん、日常は辛い事もありますが、こういう楽しさを目標にすると、自然と頑張れると思います。私も、またこのような会合に参加できるように、日々精進していきたいと思っています。



生物学若手研究者の集い 夏のセミナー2009 (嵯峨野にて)